

令和7年度リンダウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

参加会議： 第74回会議(化学関連分野)

所属機関・部局・職名： 京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻博士後期課程3年

氏名： 菅野陸童

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

全体的な印象 どの受賞者も大観衆の前での講演や分野外の人たちへの研究の説明に慣れておられる印象だった。「自分の研究のどこが面白いのか、そしてその面白さをいかに分かりやすく伝えるか」ということが研究者として大成する上で不可欠なスキルであることを改めて学んだ。拝聴した中で、以下3人の受賞者による講演が特に印象に残った。

Ben Feringa 先生

【印象的だった点】Energetic, humorous, and Inspiring. さながらロックスターのように聴衆を魅了する終始圧倒的なステージングだった。“Be proud of being a chemist!”という決め台詞など、単なる科学の講演の域を超えて若手研究者に夢を与えるサイエンスショーの域に達していた。今回のリンダウ会議の中で、間違いなく一番の講演だと思った。

【どのような影響を受けたか】上述のように勇気づけられる言葉を数多くいただき、研究者として生きること誇りと責任を持ちながら今後のキャリアを築こうと思った。

David MacMillan 先生

【印象的だった点】ご自身の30年あまりに及ぶ質・量ともに超一流の研究成果を、30分という短い時間で過不足なくかつ分野外の人にもわかりやすく伝える卓越したプレゼン技術を持っていると感じた。科学の講演かくあるべしといった感じの完璧な発表だった。

【どのような影響を受けたか】今後のキャリアについて相談したところ、「やりたいことがあるのなら機を逃さずに取り組みなさい」との激励をいただいた。これから研究者として生きていくにあたり、ずっと心に留めておきたい言葉となった。

J. M. Lehn 先生

【印象的だった点】Central Scienceとしての化学がどういった謎を解き明かしていく必要があるかなど、非常に大局的なコンセプトを掲げて研究を展開されている点が印象的だった。最新の研究成果を説明するなど、年齢を感じさせないバイタリティも感じた。

【どのような影響を受けたか】科学者として生きる上で、常に問いを持ち続けることが最も重要であるということを知った。そしてその問いが二番煎じでないこと、他の誰も着目していないような問いを掲げることが重要であることも学んだ。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やエクスカーション等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

全体的な印象 20人前後の受賞者に対して600人もの若手研究者が参加していたため、これほどアンバランスな人数比で受賞者と交流するのは至難の業だった。その中で一対一の交流を持つには、ランチやディナーの席で遠慮なく隣に座る、人混みをかき分けてでも質問しに行くなど、ある種の厚かましさが必要だと感じた。

Morten Meldal 先生

【印象的だった点】二日目の夕食で隣の席に座らせていただいた。飲み物の空いた参加者を見てはワインや水を勧めてくださる、テーブル全体に話題を振りまいてくださるなど、非常に丁寧な気遣いをしていただいたのが印象に残った。日本に旅行された際のエピソードで爆笑をかつさらうなど、大変ユーモラスな方でもあった。

【どのような影響を受けたか】Meldal先生が学生時代にリンダウ会議に参加されたというお話を聞き、同じくリンダウ会議参加者となった自分も努力を続けていけば将来大成できるのではと勇気づけられた。今後の研究生活での大きなモチベーションになった。

J. M. Lehn 先生

【印象的だった点】私自身の研究がLehn先生の研究に大いに影響を受けていることもあり、自分のこれまでの研究成果について個別ディスカッションをお願いしたところ快く引き受けていただいた。鋭い質問をいただいただけでなく、今後の研究を発展させるための的確なご助言もいただき、80歳を超えた今でも現役の研究者であると感じた。

【どのような影響を受けたか】今回の参加者の中で最も憧れていた受賞者だったので、一対一で議論できた経験はこれからの研究者人生で一生褪せない心の支えになると思う。

J.P.Sauvage 先生

【印象的だった点】五日目の夕食で隣の席に座らせていただいた。化学の話だけでなく、サイエンスコミュニケーションの重要性やヨーロッパの国同士の文化の違い、ご自身の趣味であるロックバンドの話など、非常に多くのトピックで会話を盛り上げてくださった点が印象に残った。日本の研究者や和食・和服の話題に花が咲くなど、親日家でいらっしやる点も印象的だった。

【どのような影響を受けたか】様々な国籍の若手研究者と分け隔てなく積極的に交流を持たれていた姿勢は、自分も今後の国際学会で人脈を築く上で見習おうと思った。また、世代の大きく離れた人とも様々な話題で交流できる視野や知見の広さも学ぶべきところがあった。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

【印象的だった点】 今回のリンダウ会議には、世界中から集まった 606 人の若手研究者が参加していた。その大半が単に研究業績が優れているというだけでなく、他の参加者たちとできるだけ多く交流しようという社交的な姿勢を持っていたことが最も印象に残った。受賞者の講演で鋭い質問を投げかけていたほか、各種イベントや食事中、会場に向かうバス車内に至るまであらゆる場面で他の研究者との交流を持とうとしている積極的な姿勢には大いに刺激を受けた。また、どの国からの参加者も英語が非常に堪能で、時には相手が早口すぎて会話についていけなくなる時もあり、今後も自分の英語力を磨き続けなければいけないと痛感した。

【どのような影響を受けたか】 化学のあらゆる分野からの参加者がいる中で、自分と同じ分野の研究で卓越した成果を挙げている優秀な若手研究者たちと出逢えたのは非常に幸運だった。彼らとは今後も学会で再会したり論文を読んだりといった形で交流が続くはずなので、海の向こうにも好敵手がいるということ意識して今後の研究活動に取り組みたいと思う。また、異分野の研究に従事する人達と交流できたことも、普段の学会では触れないような知識を得たという点で有意義なものとなった。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

【印象的だった点】 海外の博士課程やポスドク研究に取り組んでいる人、外部資金の獲得に積極的に挑戦する人など、日本からの参加者の皆様はどの方もアグレッシブに研究活動されている点が印象的だった。それぞれの研究に対する動機や将来のキャリア像も十人十色で、それらを互いに語りあった際には自分も頑張らねばと思ったと同時に、安易に他人の生き方を追従するのではなく自分の思い描く研究者像を追いかけていけばいいのだという励みにもなった。

【どのような影響を受けたか】 同世代の同胞たちと一週間行動をともにすることで、自身の研究に対するモチベーションが確実に高まった。今回日本からともに参加した皆様と肩を並べられる研究者でありたいという気持ちを心の支えにして、これからの研究活動に取り組みたいと思う。

5. 特に良かったと思うリンダウ会議のプログラム(イベント)を3つ挙げ、その理由も記載してください。

【Open Exchange】 受賞者たちが複数の部屋に一人ずつに分かれ、それぞれの部屋で若手研究者たちと一問一答スタイルで意見を交わすというイベント。トピックは研究に関するものにとどまらず、ノーベル賞受賞時の裏話やキャリアの相談、受賞者の趣味に至るまで(常識的な範囲内なら)なんでもOK。笑いあり感動ありの様々な話が聞けて、受賞者たち一人一人のパーソナリティが最も色濃く現れるイベントだと思う。

【Bayern Evening】 最終日の前日、全ての参加者が集まってバイエルン地方の舞踊や伝統音楽をBGMに夕食を共にするというイベント。若手研究者たちはそれぞれの出身国の装束を着て参加するのが通例となっており、色とりどりの伝統衣装が一堂に会する光景はなかなかお目にかかれない。余談だが、日本人の浴衣は海外の参加者からめちゃくちゃウケるのでオススメです。

【Boat Trip】 最終日にボーデン湖に浮かぶ巨大客船に乗り、湖上のマイナウ島へ移動して最後のPanel DiscussionやClosing Ceremonyを行うイベント。ワインを片手に友人たちと語り合う豪華クルージングや、湖と島の美しい光景は、一週間の会議に全力で取り組んだご褒美としてこれ以上ないものである。

6. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット[具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載してください。]

3, 4で述べたことと重複するが、世界中の優秀な研究者たちとの交流を通して研究に対するモチベーションが上がったのが一番の収穫だったと思う。正直なところ、他の参加者たちのあまりの優秀さに圧倒されて落ち込む瞬間も幾度かあったが、それでもなお受賞者との交流や若手研究者との議論に積極的に挑むことで「自分もまだまだできるぞ、これから先も負けないぞ」と自信を深めることができた。

研究交流に関しては、今秋に日本で開催される某国際学会に来るという若手研究者と知り合いになったので、彼らが来日する際には将来の共同研究などに繋げられるよう親交を深めたいと思う。他の参加者たちとも、今後の国際学会などでリンダウ同窓生として再会できる日を心待ちにしている。

7. リンダウ会議への参加を通して得られた上記の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

日本政府の科学政策の長年に渡る失敗も相まって、今の日本の若手研究者の間には学会や科学研究に対する大きな失望や諦めが蔓延しているように思う。私もその一人だが、今回のリンダウ会議を通じて「やはり研究は面白い！」とモチベーションを取り戻すことができた。この高揚感をより多くの若手研究者に共有すること、またそうすることによって研究活動や日本の学会に対する若手研究者の諦観を払拭することがリンダウ会議参加者として取り組むべき使命であると感じている。具体的には、所属する大学で報告会を開くなどしてリンダウ会議での経験を幅広く伝え、次回以降の会議に参加しようとする同世代の学生たちを鼓舞したい。また、来年（2026年）には全分野合同のリンダウ会議が開催されるので、化学界限だけでなく異分野の研究に従事している友人たちにもリンダウ会議の良さを伝え、彼ら/彼女らの参加への動機を高められればと思う。

8. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージ

リンダウ会議に参加するメリットは、①滅多にお目にかかれないノーベル賞受賞者たちと話すことができる、②国内外の同世代の研究者たちと互いのモチベーションを高め合うことができる、という二点です。論文でしか見たことのない憧れの受賞者たちや、同世代のトップランナーたちとの交流から得られる刺激は、リンダウ会議ならではのと思っています。少しでも興味のある方は是非参加してみてください。必ずポジティブな経験になります。

会議を楽しむための Tips をいくつか挙げておきます。会期内のイベントの一部は人数制限があり、事前にオンラインで参加登録をする必要があります。登録は先着順なので、実行委員会からメールで連絡が来た際は速やかに対応するのがおすすめです。また、過去の学会で発表した自分の研究内容のポスターPDFなどをタブレットやスマホに忍ばせておくと、受賞者や若手研究者とディスカッションするときに便利です。また、実際に受賞者を目の前にすると何を喋ったらいいか分からなくなることもあるので、事前に質問したいことリストを準備しておくとお話が弾むと思います。

（以上の記載内容は、氏名と併せて日本学術振興会ウェブサイトに掲載されます。）